



Head Office OYANAGI CONSTRUCTION

はじまりの地から、  
建設業にイノベーションを。

1945年、新潟県加茂市で産声を上げた私たち。

地域になくてはならない建設という仕事に誇りを持ち、

今日まで成長を遂げてきました。

近年、建設業界は人手不足をはじめ、さまざまな課題に直面しています。

そんな状況を変えていくのは、

モットーに「変化を楽しもう。」を掲げる私たちでありたい。

慣習にしばられず、新しい働き方を生み出そう。

地方にいたって世界と肩を並べる仕事ができることを証明しよう。

次世代に、もっと建設の魅力を継承しよう。

そんな思いから、新社屋建設プロジェクトはスタートしました。



出典：国土地理院撮影の空中写真（1961年撮影）



## オフィスのいたる場所に、 働きやすさを。

未来を変えようとなると、熱い思いだけでは足りません。

本プロジェクトには4年半の歳月を費やし、知恵と工夫を結集しました。  
こうして形になったのが、社員一人ひとりがいきいきと働けるオフィスです。

木目調のインテリアがぬくもりを放つ、開放感たっぷりの館内。

社員同士のコミュニケーションを誘発するレイアウト。

ひとりで集中するのにも、チームで話し合うのにも適した

フレキシブルなワークスペース。

最新の3D技術を駆使することで

建設現場の様子がリアルに見て取れるミーティングルーム。

オフィスのいたるところに、働き方を変える工夫が息づいています。







## 地域に愛されるシンボルを目指して。

オフィスは地域の一部でもある。私たちはそう考えます。

だからこそ、社員の働く様子が見える外観にし、

地元の人が気軽に来店できるスペースや、

自由に出入りできるバルコニーなどを設けました。

街に開かれたオフィスとして、地域を元気にする拠点として、

新たなワークスタイルを提案するお手本として、

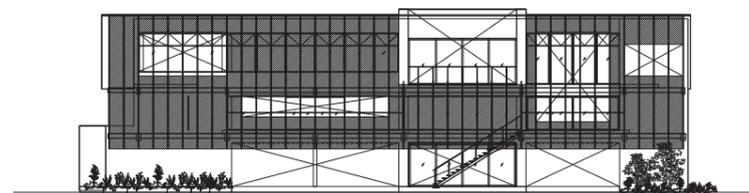
これからも積極的に存在感を高めてまいります。



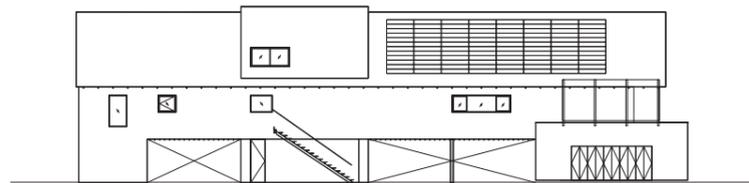
オフィスの顔となるファサードには、社内の様子が見えるルーバーを採用。小柳建設を身近に感じてもらうことがその狙いです。



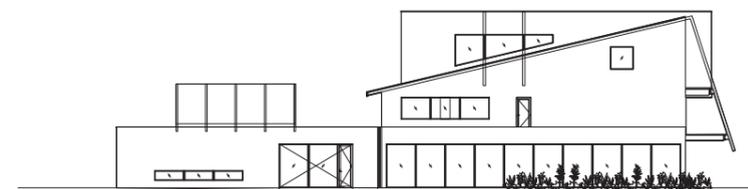
らせん階段で2階と3階を行き来できるルーフバルコニー。見晴らしが良く、イベント開催時には地域のみなさまにも開放しています。



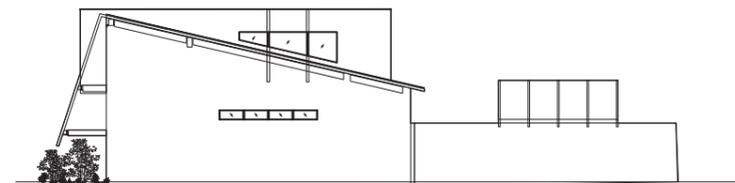
西側



東側



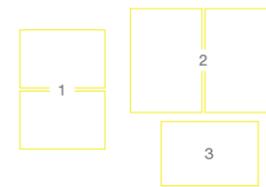
北側



南側

1:400

1:400



**1. 廊下・会議室**

まるで路地とつながっているような、ガラス張りの廊下。街の息づかいが、廊下に面した会議室でも感じられます。

**2. 大階段**

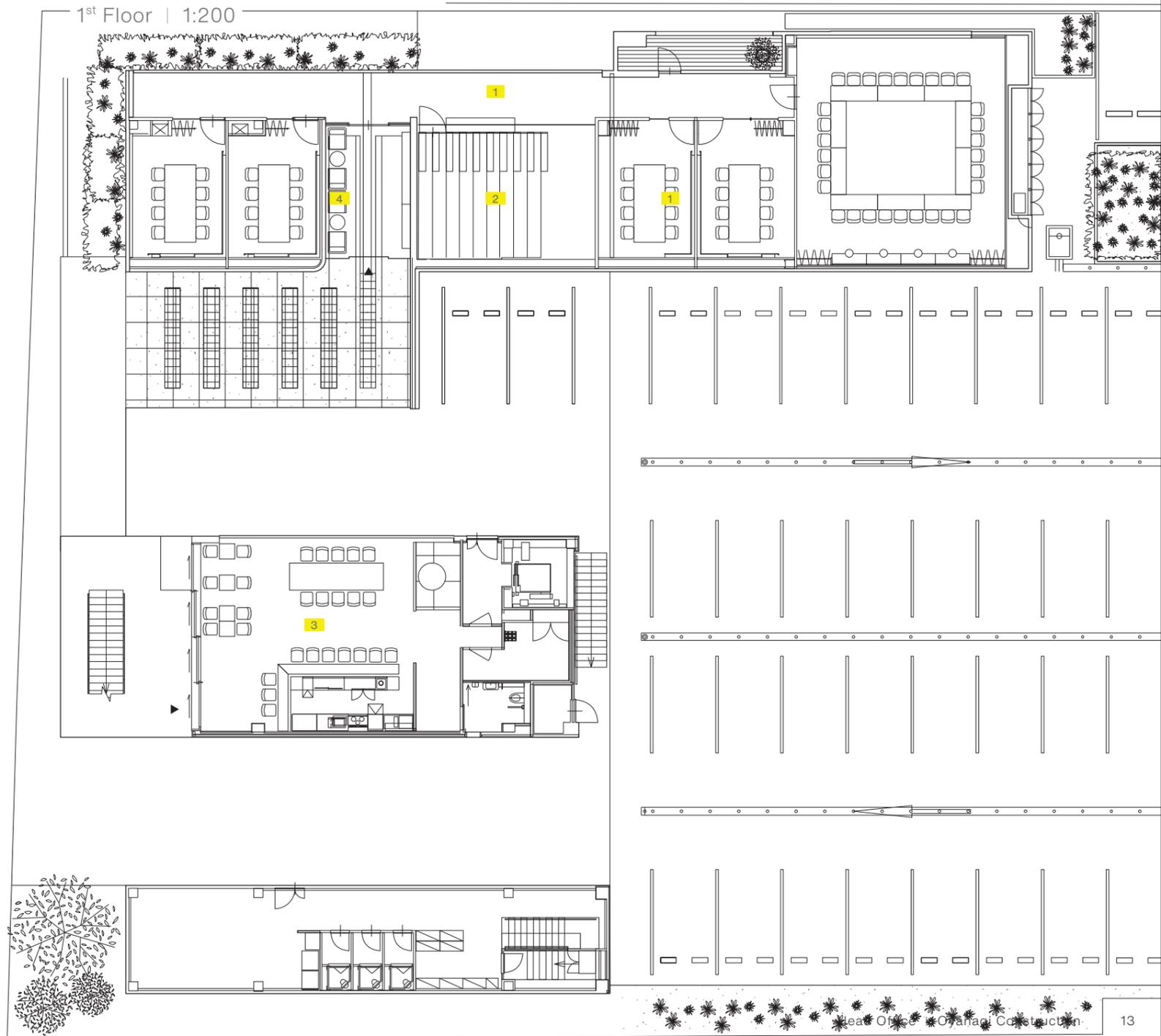
大階段には大型プロジェクターを設置。階段をひな壇席にすることで、100人規模のイベントを行えます。

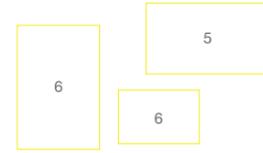
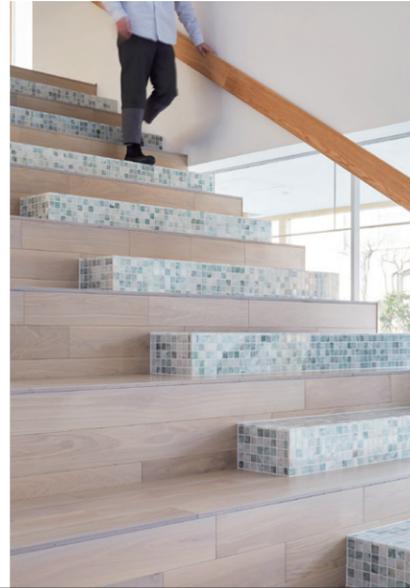
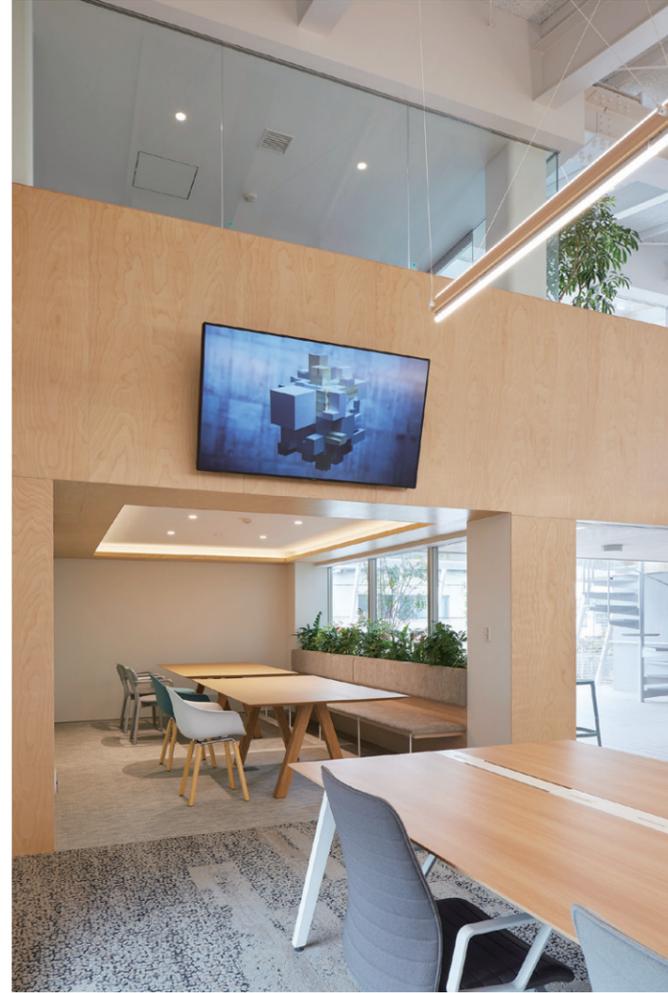
**3. コワーキングスペース**

キッチン設備を整えた「地域共生カフェ」。地元の学生や起業したい社会人をインキュベーションする仕組みのひとつです。

**4. 受付エリア**

タブレットを使った無人受付システムを導入。小柳建設の歴史を物語る、創業当時の法被を展示しています。





**5. 執務スペース**

大階段に隣接する執務スペースは、ショーケースのようなガラス張りに、社員の働く姿をダイナミックに感じられます。

**6. アメーバスペース**

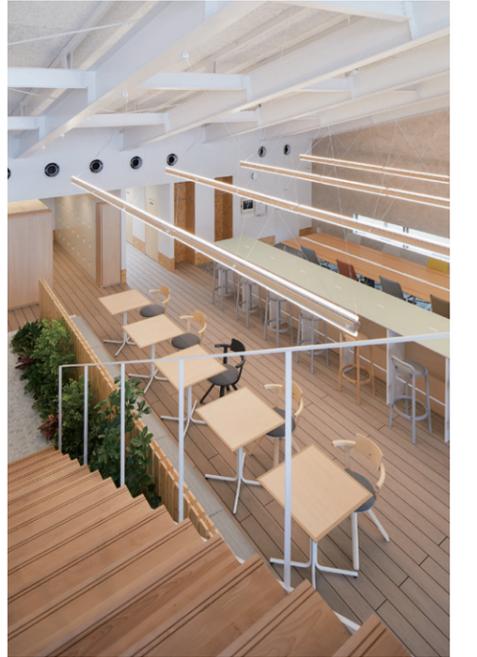
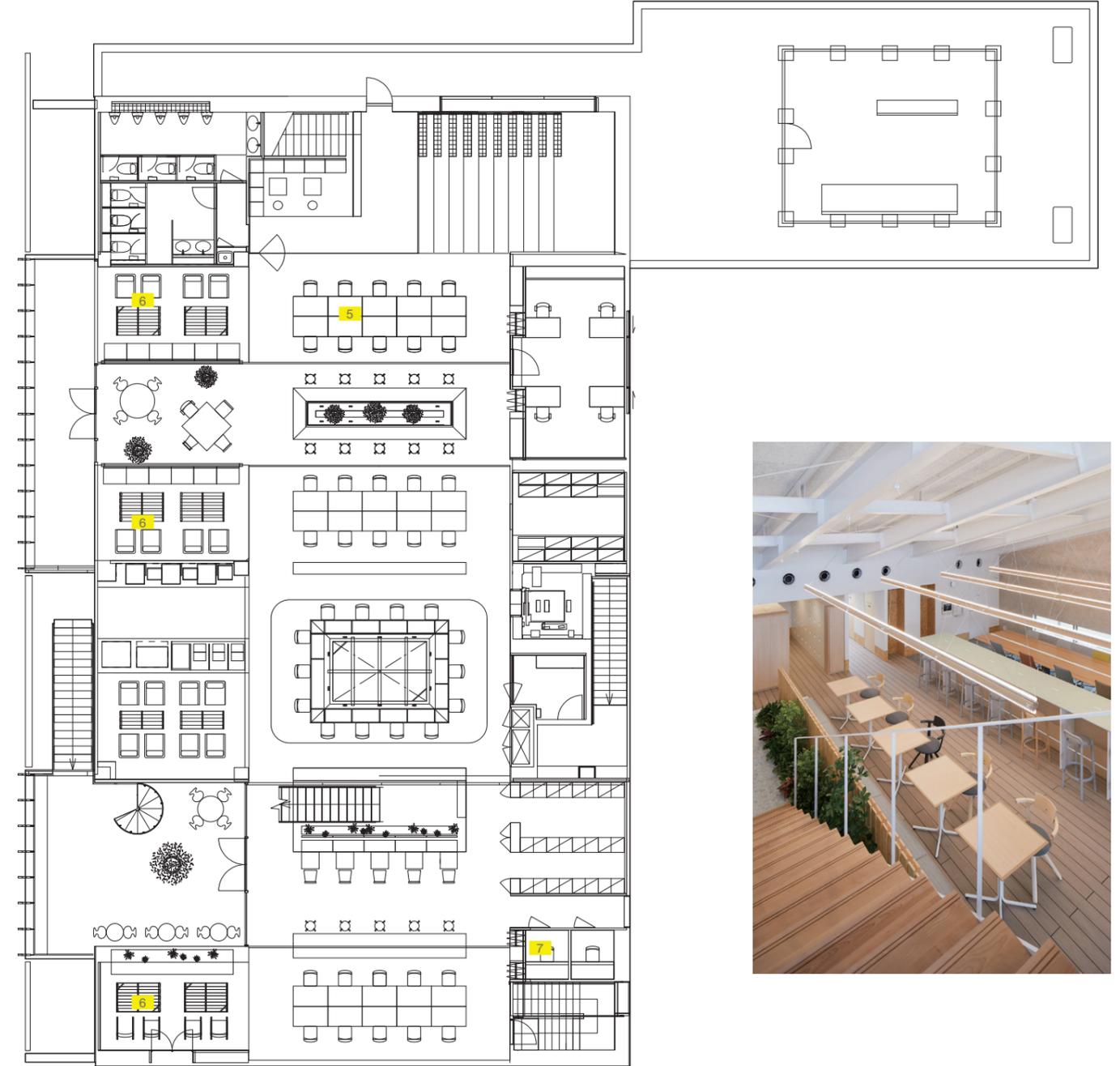
分散していたチームを呼び寄せ、すぐにミーティングが始められる通称「アメーバスペース」。互いの距離感を近づけるために、あえて天井を一段低く設計しています。

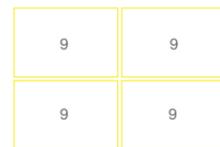
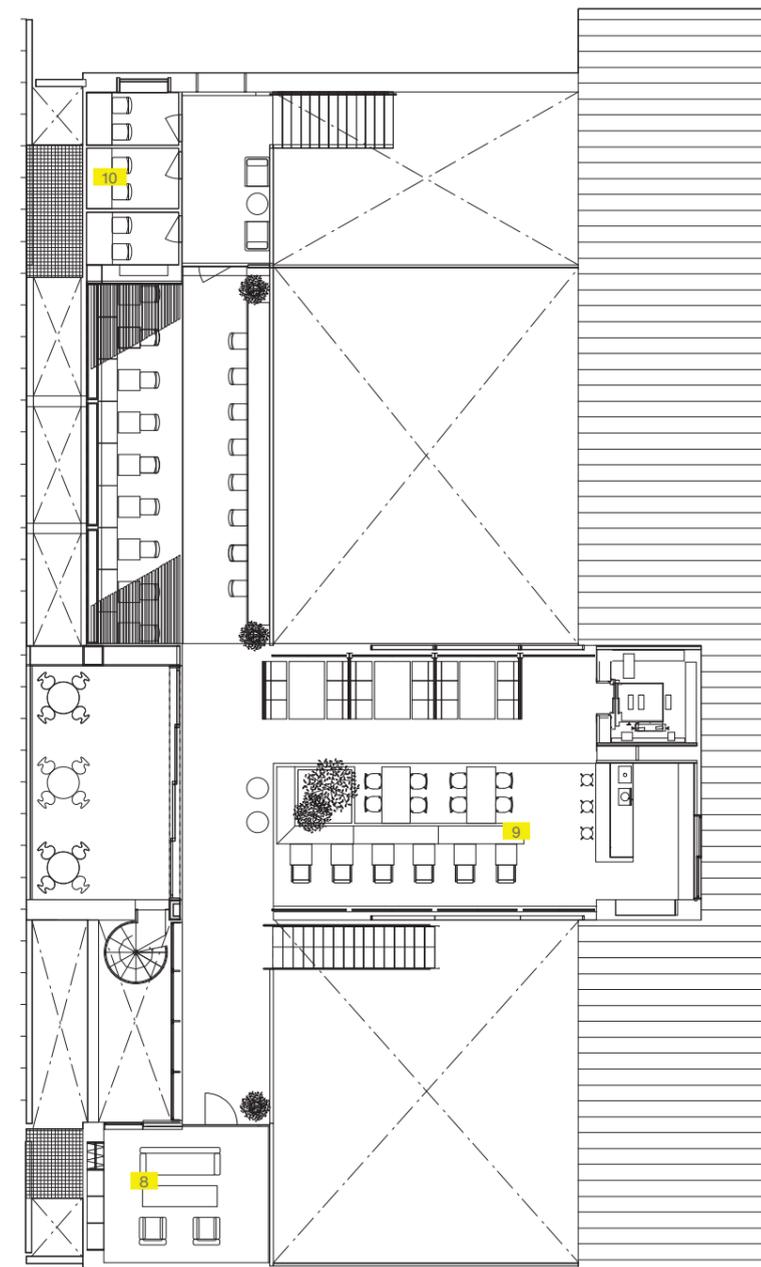
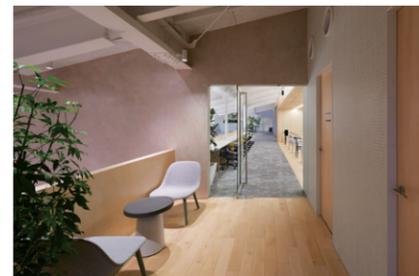
**7. パーソナルブース**

オンライン会議のときなど、ひとりで集中するのに便利な個人スペース。Holostructure (P19 参照) を使ったミーティングを行う「DX ルーム (仮想デジタル会議室)」としても活用しています。



2<sup>nd</sup> Floor | 1:200





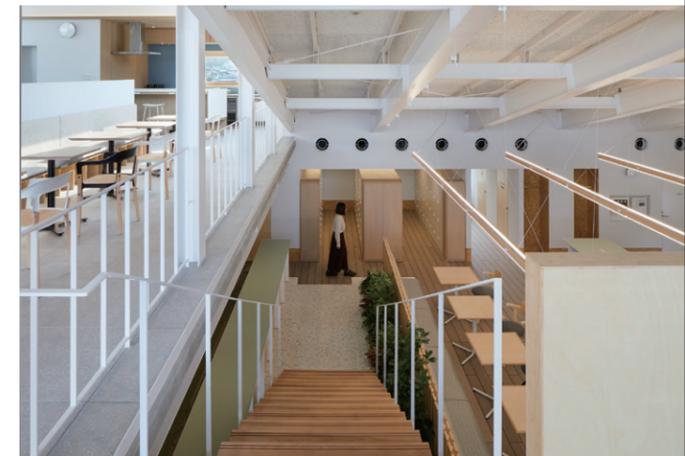
8. ミーティングルーム  
ソファでリラックスしながら  
ミーティングができる、社員  
専用のスペースです。



9. カフェテリア  
キッチンを備えた執務スペース。会食をしながら社員同士の  
交流を深める場としても利用しています。



10. 1on1スペース  
社員とのコミュニケーション  
を深める月1回の1on1(個人  
面談)用のスペース。対面では  
なく、肩を並べて座るレイ  
アウトにすることで気兼ねなく  
話し合えるようにしました。



## 3つの柱で、働き方にイノベーションを。

社員一人ひとりが主役となり、いきいきと働けるオフィスにするために。これまでの建設業界にはない先進的な取り組みに力を注いでいます。

# 1 主体性のある人財の育成

## ABW (Activity Based Working)の推進

オフィスに限らず自宅やカフェなど、働く場所を自由を選ぶワークスタイルを採用しています。個々のスタッフに判断を委ね、自主性を高めます。



## 経営者思考をもたらす「アメーバ経営」

オフィス内に点在するサイネージで、社員にも経営情報をシェア。ビジネスにおけるひとりひとりの当事者意識を高め、経営に参画する姿勢を育みます。



## 社員同士のコミュニケーションを創出

社員が行き交う内階段。発表会ができる大階段。即席のミーティングができるアメーバスペース。コミュニケーションを促すスペースが揃っています。



## 多様なコラボレーションの促進

### さまざまな交流が生まれる拠点に

地域共生カフェに出店するテナントや、開催されるイベントは、いずれも期間限定。地域の人はもちろん、社員にとっても新しい発見があるスペースです。



限定メニューやコラボ商品を目当てに、たくさん地域住民が集います。

イベント開催時には、2～3階のテラスが開放されます。



# 3 DX (Digital Transformation)の推進

## Holostruction (ホロストラクション)の独自開発

日本マイクロソフト株式会社のヘッドマウントディスプレイ (HoloLens) を装着して、目の前に建物の3D画像を投影させるMR (複合現実) 技術です。これによって、遠隔地からも建設現場の状況をリアルに把握可能。複数人でのミーティングにも利用できます。

### 特徴

- 3D CAD データをリアルタイムにシェア
- メトリクスリモートコミュニケーション機能を搭載
- 手の動きだけで直感的に操作が可能

### 実績

- 令和元年度版「国土交通白書」に掲載
- 令和元年度、2年度、3年度「国土交通省 建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」への採択、実証実験



## オンライン会議の環境整備

建設業においてサテライトオフィスにあたる現場事務所と本社とで円滑にコミュニケーションが取れるよう、Web会議ツールを導入しています。

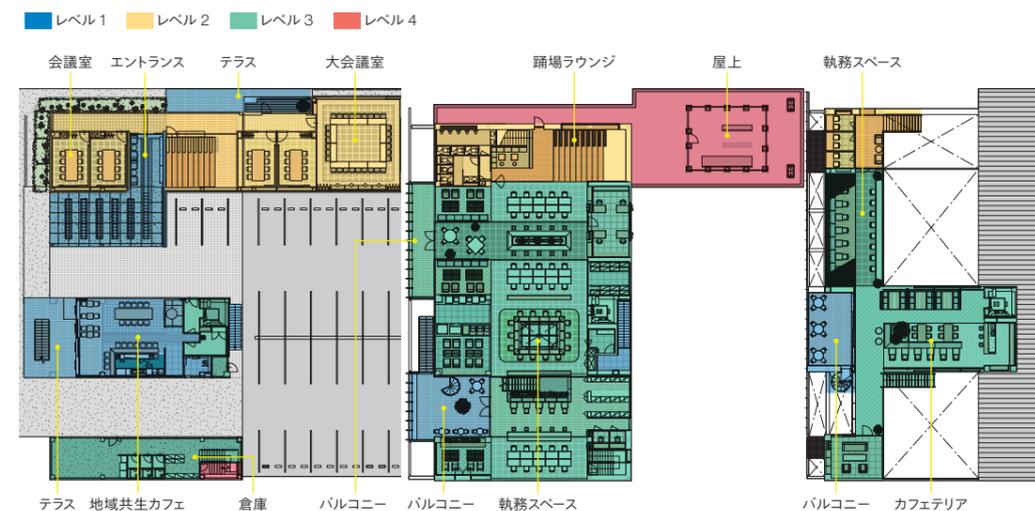


## 万全のセキュリティを備えた、オープンなオフィス。

地域住民に開放するエリア、社員などの関係者しか立ち入れないエリアと、役割ごとにセキュリティレベルを分けました。オープンさと万全のセキュリティ、相反する特徴を兼ね備えています。

### 各エリアのセキュリティレベル

「レベル1」は地域住民も自由に出入りできるエリア。執務に関わるそれ以外の部屋ではIDカードによる入退室管理を行い、セキュリティ性を高めています。



### 空間・セキュリティスペック

BCP 対策	耐震性能は建築基準法を満たすレベル。また災害対策として、主要設備（キュービクル等）の2階屋上設置、フルクラウド化（サーバ室を保持しない）を実施。防災、BCPに活用できる自社製品 All-sighte* を使用しての対策。災害時自動に備え、予備の作業着・土のう袋・ブルーシート等の応急対策資材を保持。
コロナ対策	自然換気を考慮した建築。体温測定とアルコール除菌
情報ネットワーク	社外の方向けに Guest Wi-Fi を用意 VPN による通信保護でセキュリティ確保
セキュリティ認証	2012年5月より ISO27001 (ISMS) 認証取得
オフィス内セキュリティ	<IDカードによる入退室管理> 外部等の境界となるドアに SmartLock を設置し、セキュリティ強化 <IDカードで必要時のみ出力> 印刷物の出力を自身でコントロールできることで、機密文書等秘匿性の高い情報も保護できる
ファシリティ運用体制	オフィスユーザーズガイドによる使い方共有

\* スマートフォンで撮影した写真に位置情報 (GPS) やコメント (点検状況、災害状況など) を付加しクラウドサーバ上に送信、他ユーザーや管理者との状況共有が可能な業務支援システム

## チャレンジ精神で、さらなる飛躍を。

材木業から始まった小柳建設は、土木、建築、浚渫へと事業を広げ、今日では Holostruction 事業を立ち上げました。三代に渡って引き継がれてきた「挑戦する DNA」を胸に、これからも成長を遂げてまいります。

### 事業内容



#### 土木事業

河川、橋、道路、トンネル、給排水施設などのインフラ整備や、水害や震災からの復旧・復興工事に従事してきました。全国で重ねてきた70年以上の実績と最先端技術を生かして、地域の発展に貢献していきます。



#### 建築事業

高層マンション、教育施設、工場、事務所、商業系店舗、福祉施設、木造住宅など、あらゆる建設物の設計・施工に対応。お客様のご要望にきめ細かく応える精鋭を揃えています。



#### 浚渫事業

河川や湖沼など堆積した土砂を取り除く浚渫作業では、独自の吸引方式「泥土吸引圧送システム」を開発。皇居外苑千鳥ヶ淵、神田川、隅田川などの工事に採用され、今日では小柳建設を代表する技術となっています。



#### 舗装事業

日頃から技術開発や技術者の育成を推進し、交通インフラの整備に携わっています。平成28年2月には新潟県で初となる「ラウンドアバウト(環状交差点)」を施工。安全性や環境性に配慮した道づくりに貢献しました。



#### 埋蔵文化財支援事業

試掘、発掘調査、整理作業、報告書作成などの埋蔵文化財調査を支援。デジタルトレースによる電子納品にも対応しており、学校教育や観光産業の資料としてもご利用いただけます。



#### Holostruction 事業

「いい仕事は、家族との時間もつくる」をコンセプトに、小柳建設と日本マイクロソフト株式会社が共同でスタート。従来のコミュニケーションや働き方を変える画期的なソリューションとして、多方面から注目を集めています。



 小柳建設株式会社  
OYANAGI CONSTRUCTION Inc.